

令和 2 年度 事業報告

1. 概要

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会の令和 2 年度の事業報告は以下のとおりである。

(1) 社会福祉事業

① 病院

合計 81 病院（許可病床数 22,244 床）で保健・医療サービスを提供した。今年度は新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、国や各自治体が感染患者の受入病床確保に苦慮する中で、8 割以上の本会病院が公的医療機関として積極的に各種検査や患者受け入れに協力した。

《患者数》

外来患者数は近年、減少傾向であったことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響による不要不急の外出要請が受診抑制につながったこと等により、当年度の外来患者は対前年度比で 9.7%減少し、延約 884 万人となった。

入院患者数においても感染症の影響は大きく、対前年度比で 9.1%減少し、延約 618 万人となった。

《収益および収支の状況》

入院、外来ともに患者数が減少したものの、新型コロナウイルス感染症に対応するための診療報酬の特例措置や、患者受け入れのための病床確保等に対し、補助金が交付されたことで、サービス活動収益全体では対前年度比で 227 億円（3.8%）増加した。

また、経営の先行きが見通せない中、多くの病院が苦渋の決断でボーナス削減に踏み切るなど、収支改善の取り組みによりサービス活動増減差額は 277 億円の黒字となった。

② 介護老人保健施設

合計 29 施設（入所定員 2,273 人）でリハビリを中心とした介護サービスを提供した。

入所者延数は 718 千人（対前年度比 13 千人減少）、短期入所療養介護延数は 37 千人（対前年度比 6 千人減少）、通所リハビリテーションは 198 千人（対前年度比 5 千人減少）であった。上位施設基準の取得によりサービス活動増減差額は、対前年度比 69 百万円の改善となった。

③ 特別養護老人ホーム

令和2年7月に神奈川県のおかくさ（旧・若草ホーム）が新築移転し、入所定員も110人に拡張したため、本会全体の入所定員は対前年比40人増の4,148人となった。

入所者は延約145万人で前年度同水準、平均要介護度の上昇等を主因にサービス活動収益は対前年度比で増加するも、人件費の増加によりサービス活動増減差額は、対前年度比66百万円の悪化となった。

④ その他

上記3事業含め、社会福祉事業第1種、第2種合計では、287の拠点において合計567の事業を行い、患者及び利用者数は延約1,946万人であった。

（2）公益事業

看護師養成所や指定訪問看護ステーション等22種類の事業を、113の拠点において合計157の事業を行い、利用者数は延約105万人であった。

（3）収益事業

不動産貸付業等、スポーツ及び文化的活動を支援する事業を合せて、9事業を実施した。

（4）施設整備事業

合計240件、約393億円の整備を行った。

主な整備内容は、建物新築・移転新築工事費等として16施設で約138億円、建物改修工事費として82施設で約29億円、土地取得費として9施設で約3.7億円、医療用器械備品整備費として87施設で約156億円。

（5）内部管理体制の運用状況

業務の適正を確保するための体制(社会福祉法第45条の13第4項第5号)として、本会全体で、「内部管理体制の基本方針」(平成29年6月2日理事会議決)に基づき、内部管理体制を運用した。

さらに、各支部(40支部)において、支部理事会でそれぞれ議決した「都道府県支部内部管理体制の基本方針」に基づき、経営に関する管理体制等を整備・運用した。これらについては、支部内で支部監事監査を実施するとともに、独立した会計監査人監査及び本部としての定期的な内部監査を実施し、モニタリング・報告を行った。